

平成31年度

鹿児島県公立高等学校 入学者選抜学力検査結果の概要

この資料は、公立高等学校入学者選抜学力検査結果の概要をまとめたもので、受検者の学力の状況について、先生方や県民の皆さんに理解してもらうために作成したものです。

小学校、中学校、高等学校、それぞれの立場から、学習指導の改善充実を図るための資料として活用してください。

鹿児島県教育委員会

目 次

はじめに	2
1 第一次入学者選抜の状況について	3
2 総得点について	4
(1) 受検者の得点分布	
(2) 受検者（400点以上・360点以上・100点未満）、合格者（100点未満）の 年度別推移	
3 各教科の平均点等について	5
(1) 各教科の平均点	
(2) 受検者の平均点の年度別推移	
(3) 各教科における受検者の得点分布及びそのグラフ	
4 目安点をめぐる状況について	7
(1) 目安点未満の人数推移（過去5年間）	
(2) 目安点未満の地区別状況（出身中学校所在地別）	
(3) 過去5年間の基本的な「読み・書き・算」をめぐる状況	
5 今年の特徴的な問題	9
(1) 国語における特徴的な問題	
(2) 社会における特徴的な問題	
(3) 数学における特徴的な問題	
(4) 理科における特徴的な問題	
(5) 英語における特徴的な問題	
6 国語について	14
(1) 大問・小問別正答率と教科指導上の参考（国語）	
(2) 国語の問題	
(3) 国語の解答例	
7 社会について	18
(1) 大問・小問別正答率と教科指導上の参考（社会）	
(2) 社会の問題	
(3) 社会の解答例	
8 数学について	23
(1) 大問・小問別正答率と教科指導上の参考（数学）	
(2) 数学の問題	
(3) 数学の解答例	
9 理科について	29
(1) 大問・小問別正答率と教科指導上の参考（理科）	
(2) 理科の問題	
(3) 理科の解答例	
10 英語について	35
(1) 大問・小問別正答率と教科指導上の参考（英語）	
(2) 英語の問題	
(3) 英語の解答例	

はじめに

平成31年3月6日、7日に、公立高等学校入学者選抜学力検査を実施しました。

学力検査問題の出題に当たっては、学習指導要領に示された目標に則し、小学校から中学校までの間に学習したことのうち、基礎的・基本的な事項及びこれらを活用して課題解決するために必要な思考力・判断力・表現力が検査できるように留意したところです。

特に、これからの時代に必要とされる読解力と表現力を意識した出題を行いました。対話文や資料の中に提示された解決の条件や解答に求められる様々な情報を読み取ったり、複数の異なる資料を活用したりしながら思考判断したことを、自分の言葉で分かりやすく伝える（アウトプットする）力を重視したところです。

教科別では以下のとおりです。

国語においては、国語を適切に表現し正確に理解する力をみるとともに、伝え合う力や思考力、および想像力を総合的にみる問題としました。作文問題では、複数の異なる資料をもとに自分の考えを構築して論述する力をみています。

社会においては、地理・歴史・公民の各分野の基礎的・基本的な事項に関する知識や技能をもとに、複数の資料などを活用して解答する問題を出題しました。字数制限等の条件をつけた論述問題を数問出題し、それぞれの条件に沿って文にまとめる力をみています。

数学においては、授業中に先生と生徒が会話をする形式の問題を出題しました。対話的な学びの中で、自らの考えを表現する力をみています。

理科においては、中学校までの理科の学習で扱う自然の事物・現象を題材に基本的な知識や技能を問う出題をしました。目的意識をもって行う観察、実験などを通して科学的に探究し、論理的に思考、表現する力をみています。

英語においては、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4領域からバランスよく出題するとともに、これらの技能を関連づけて統合的に活用する力をみています。

この冊子では、「今年の特徴的な問題」で、各教科の「問題のねらい」や「中学生へのアドバイス」を紹介しています。小学校、中学校、高等学校、それぞれの立場から、学習指導の改善充実を図るための資料として活用してください。

1 第一次入学者選抜の状況について（推薦入学者選抜等に係る人数を含む。）

課 程	学 科	全 日 制							定時制 計	全定合計
		普通	農 業	工 業	商 業	家 庭	総合・その他	計		
募集 定員	31年度	6,165	760	1,840	1,960	520	758	12,003	84	12,087
	30年度	6,242	800	1,840	1,960	520	798	12,160	84	12,244
出願 者数	31年度	6,055	506	1,711	1,681	445	437	10,835	39	10,874
	30年度	5,951	491	1,758	1,698	482	495	10,875	49	10,924
受検 者数	31年度	5,853	496	1,643	1,643	433	426	10,494	33	10,527
	30年度	5,787	484	1,689	1,657	478	490	10,585	45	10,630
合格 者数	31年度	5,280	466	1,553	1,582	420	413	9,714	33	9,747
	30年度	5,231	463	1,600	1,557	449	469	9,769	39	9,808
受検 倍率	31年度	0.95	0.65	0.89	0.84	0.83	0.56	0.87	0.39	0.87
	30年度	0.93	0.61	0.92	0.85	0.92	0.61	0.87	0.54	0.87

- ・ 表は、開陽高校の第3回・第4回入学者選抜に係る人数を含まない。
- ・ 普通には、理数科、文理科学科、文理科、情報科学科、体育科、音楽科、美術科、スポーツ健康科が含まれる。
- ・ 平成31年度の公立高等学校入学者選抜の受検者数は10,527人で、中学校卒業者の68.1%であった。
- ・ 受検倍率は、（受検者数）÷（募集定員）として算出した。

（参考）推薦入学者選抜、連携型中高一貫教育校入学者選抜及び帰国生徒等特別入学者選抜の状況

課 程	学 科	全 日 制							定時制 計	全定合計
		普通	農 業	工 業	商 業	家 庭	総合・その他	計		
出願者数		486	15	94	139	45	23	802	1	803
受検者数		483	15	94	139	45	23	799	1	800
合格者数		439	14	94	137	45	23	752	1	753

- ・ 推薦入学者選抜には、自己推薦入学者選抜を含む。

（参考）第二次入学者選抜の状況

課 程	学 科	全 日 制							定時制 計	全定合計
		普通	農 業	工 業	商 業	家 庭	総合・その他	計		
募集定員		886	294	287	378	100	328	2,273	35	2,308
出願者数		34	17	5	20	1	9	86	2	88
受検者数		34	17	5	19	1	9	85	2	87
合格者数		32	10	4	14	1	6	67	2	69

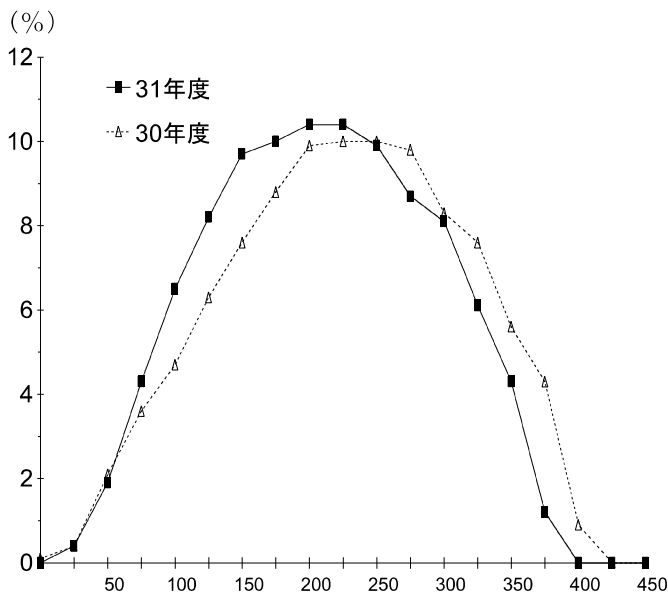
2 総得点について（全日制，定時制合計）

※ この項以降のデータは，すべて学力検査受検者についてである。

(1) 受検者の得点分布

- 平均点は前年度に比べて17.2点下がった。

平成31年度 221.4
平成30年度 238.6



(点)

得 点 分 布																		平均点
0	25	50	75	100	125	150	175	200	225	250	275	300	325	350	375	400	425	
0.0	0.4	1.9	4.3	6.5	8.2	9.7	10.0	10.4	10.4	9.9	8.7	8.1	6.1	4.3	1.2	0.0	0.0	221.4

※ 得点分布は%で示した。

(2) 受検者(400点以上・360点以上・100点未満)，合格者(100点未満)の年度別推移

年 度	受 検 者								合 格 者			
	受 検 者 数	400点 以上 の 人 数	400点 以上 の 割 合 (%)	360点 以上 の 人 数	360点 以上 の 割 合 (%)	100点 未 満 の 人 数	100点 未 満 の 割 合 (%)	合 格 者 数	100点 未 満 の 人 数	100点 未 満 の 割 合 (%)	100点未 満の受 検者 に 対 する 割 合 (%)	
	A	B	$\frac{B}{A} \times 100$	C	$\frac{C}{A} \times 100$	D	$\frac{D}{A} \times 100$	E	F	$\frac{F}{E} \times 100$	$\frac{F}{D} \times 100$	
31	9,774	4	0.04	348	3.56	649	6.64	8,987	507	5.64	78.1	
30	9,810	85	0.87	829	8.45	593	6.04	8,980	450	5.01	75.9	
29	10,303	43	0.42	701	6.80	554	5.38	9,501	423	4.45	76.4	
28	10,551	12	0.11	569	5.39	431	4.08	9,591	317	3.31	73.6	
27	10,267	13	0.13	436	4.25	520	5.06	9,525	379	3.98	72.9	

3 各教科の平均点等について（全日制，定時制合計）

(1) 各教科の平均点

区分	課程・学科		総得点	国語	社会	数学	理科	英語
受検者	全日制	普通	262.2	50.1	54.0	45.7	55.7	56.7
		専門	171.3	38.1	35.7	29.1	35.1	33.3
		計	221.8	44.8	45.9	38.3	46.6	46.3
	定時制		99.9	28.1	20.2	16.7	18.7	16.3
	全定計		221.4	44.7	45.8	38.2	46.5	46.2
合格者	全日制	普通	262.6	50.6	54.0	45.7	55.7	56.6
		専門	174.5	38.7	36.4	29.5	35.8	34.0
		計	222.1	45.1	45.9	38.3	46.5	46.2
	定時制		99.9	28.1	20.2	16.7	18.7	16.3
	全定計		221.6	45.0	45.8	38.2	46.4	46.1

※ 普通には，理数科，文理科学科，文理科，情報科学科，体育科，音楽科，美術科，スポーツ健康科が含まれる。専門には，総合学科が含まれる。

(2) 受検者の平均点の年度別推移

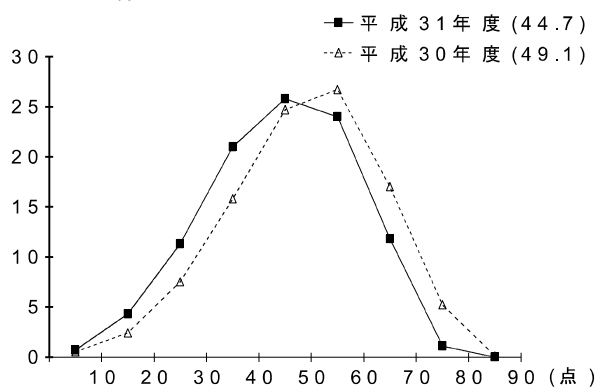
年度	総得点	国語	社会	数学	理科	英語
31	221.4	44.7	45.8	38.2	46.5	46.2
30	238.6	49.1	49.6	45.2	50.6	44.0
29	238.4	50.5	51.3	40.7	43.6	52.4
28	238.7	47.3	49.3	41.4	49.8	50.9
27	229.3	45.9	47.7	36.6	44.5	54.6

(3) 各教科における受検者の得点分布及びそのグラフ

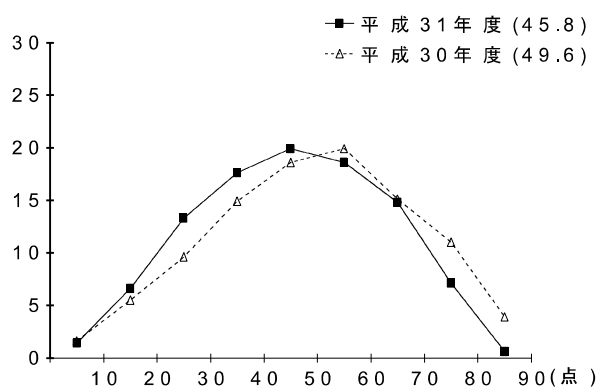
教科	得点分布								
	0～10	11～20	21～30	31～40	41～50	51～60	61～70	71～80	81～90
国語	0.7	4.3	11.3	21.0	25.8	24.0	11.8	1.1	0.0
社会	1.4	6.6	13.3	17.6	19.9	18.6	14.8	7.1	0.6
数学	2.3	12.1	21.1	22.7	17.9	12.8	8.4	2.6	0.2
理科	1.6	8.5	13.9	16.6	17.5	15.9	12.4	9.2	4.4
英語	3.6	11.9	13.5	13.1	13.2	13.0	14.1	14.4	3.1

※ 得点分布は%で示した。

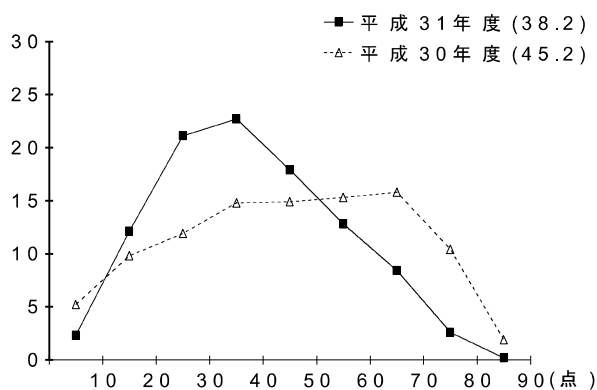
ア 国語



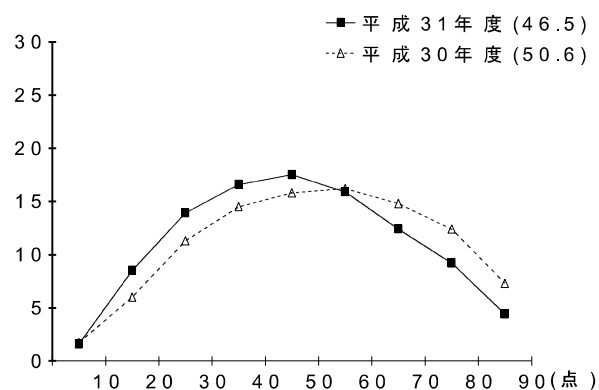
イ 社会



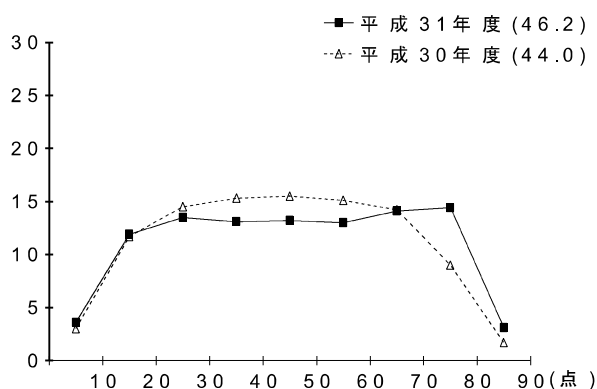
ウ 数学



エ 理科



オ 英語



() 内は平均点

4 目安点をめぐる状況について

(1) 目安点未満の人数推移（過去5年間）

単位 人

教科等	年度	平成31年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度
国語		229(3.1%)	176(1.8%)	238(2.3%)	288(2.7%)	236(2.3%)
社会		517(5.3%)	496(5.1%)	404(3.9%)	354(3.4%)	521(5.1%)
数学		944(9.7%)	1,168(11.9%)	1,231(11.9%)	1,099(10.4%)	2,042(19.9%)
理科		657(6.7%)	509(5.2%)	964(9.4%)	377(3.6%)	516(5.0%)
英語		1,133(11.6%)	1,047(10.7%)	431(4.2%)	420(4.0%)	297(2.9%)
5教科総点が目安点未満の人数		458(4.7%)	437(4.5%)	408(4.0%)	280(2.7%)	353(3.4%)
目安点未満の教科を1教科以上持つ実人数		1,783(18.2%)	1,683(17.2%)	1,688(16.4%)	1,449(13.7%)	2,212(21.5%)
受検者総数		9,774	9,810	10,303	10,551	10,267

※ 目安点は、基礎的内容の設問の合計点であり、国語・社会・数学・理科においては、小学校教材及びその関連教材の内容を含んでいる。

(2) 目安点未満の地区別状況（出身中学校所在地別）

地区	目安点 受検者	国語	社会	数学	理科	英語	総得点
		18点	18点	18点	18点	18点	90点
鹿児島	3,834 人	2.3 %	3.5 %	6.2 %	4.4 %	8.0 %	3.2 %
南薩	756 人	5.2 %	7.0 %	13.5 %	9.0 %	14.6 %	6.9 %
北薩	1,197 人	3.6 %	5.3 %	11.8 %	9.3 %	13.8 %	5.0 %
始良・伊佐	1,610 人	2.7 %	5.5 %	8.9 %	6.2 %	10.7 %	5.0 %
大隅	1,155 人	3.4 %	8.1 %	13.4 %	8.9 %	16.1 %	5.6 %
熊毛	291 人	2.7 %	8.9 %	13.7 %	8.9 %	17.5 %	6.5 %
大島	630 人	5.2 %	7.9 %	16.3 %	11.3 %	18.6 %	7.9 %
県全体	9,774 人	3.1 %	5.3 %	9.7 %	6.7 %	11.6 %	4.7 %

※ 鹿大教育学部附属中学校、私立中学校等からの受検者数301人については、地区別人数に含まない。

(3) 過去5年間の基本的な「読み・書き・算」をめぐる状況

【国語】

年 度	平成31年度			平成30年度			平成29年度			平成28年度			平成27年度		
	読 み	著(しい)	就(く)	終 息	凝(らす)	臨(む)	快 諾	警 笛	膨(らむ)	陳 列	巡(る)	驚 嘆	割 愛	貢 献	健(やか)
誤答者数 (人)	1,867	381	1,652	1,354	3,120	3,178	4,914	463	3,266	612	5,792	3,387	883	1,058	1,663
割 合 (%)	19.1	3.9	16.9	13.8	31.8	32.4	47.7	4.5	31.7	5.8	54.9	32.1	8.6	10.3	16.2

年 度	平成31年度			平成30年度			平成29年度			平成28年度			平成27年度		
	書き取り	似(た)	批 評	混 雑	尊 敬	供(え)	植 樹	寒 暖	険(しい)	奮 起	登 頂	群(れ)	順 延	季 節	慣(れる)
誤答者数 (人)	1,016	2,825	1,564	2,482	4,964	7,681	3,214	1,339	6,820	2,342	1,794	5,497	1,520	2,834	2,844
割 合 (%)	10.4	28.9	16.0	25.3	50.6	78.3	31.2	13.0	66.2	22.2	17.0	52.1	14.8	27.6	27.7

【数 学】

年 度	平成31年度		平成30年度		平成29年度	
	計 算 式	$5 \times (6 - 2)$	$1/4 + 5/3 \div 10/9$	$5 + 4 \times 6$	$9/5 \div 0.8 - 1/2$	$83 - 45 \div 9$
誤答者数 (人)	547	919	451	1,756	525	1,761
割 合 (%)	5.6	9.4	4.6	17.9	5.1	17.1

年 度	平成28年度		平成27年度	
	計 算 式	$8 + 54 \div 6$	$2/3 \times 9/8 - 1/4$	$21 - 3 \times 9$
誤答者数 (人)	454	739	934	893
割 合 (%)	4.3	7.0	9.1	8.7

5 今年の特徴的な問題

(1) 国語における特徴的な問題

2

4 筆者は、「ひとりよがりの自分を抜け出す」にはどうすることが必要だと述べているか。65字以内で書け。

【問題のわらい】

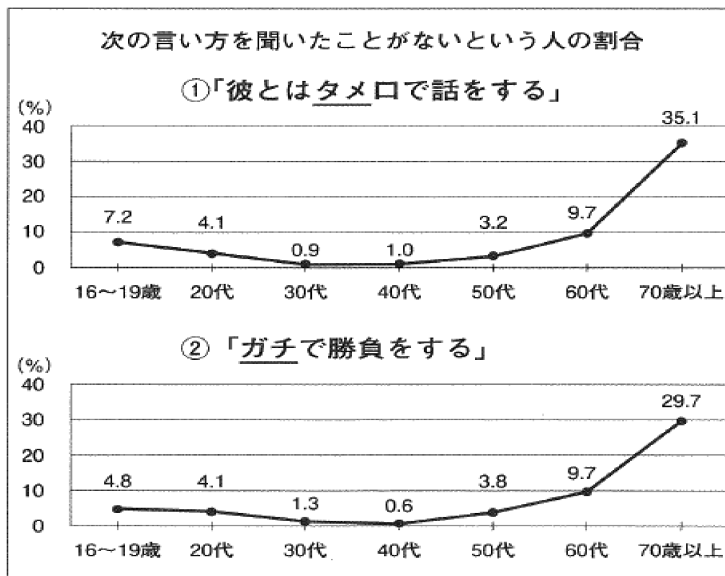
- 中学校学習指導要領「読むこと」の指導事項に関する問題。段落ごとの内容や、段落相互の関係を正しく捉え、文章全体を通して述べられている筆者の考えを読み取る力をみる。

【中学生へのアドバイス】

- 文章全体を通して述べられている内容や筆者の考えを、論の展開やキーワードに着目して60字や100字など指定された字数以内で要約する練習をしましょう。
- 「相対化」などの本文中に繰り返し使われている語や、「ひとりよがりの自分を抜け出す」などの抽象的な表現が具体的にどのようなことを述べているか考えてみましょう。

5

資料2



(文化庁「平成29年度 国語に関する世論調査」をもとに作成)

資料1

高齢者の世代間交流

高齢者の若い世代との交流への参加意向についてみると、参加したいと考える人の割合（「積極的に参加したい」、「できるだけ参加したい」と回答した人の合計）は平成二十五年で五十九パーセントとなっており、十年前（平成十五年）に比べると七二ポイント増加している。

(内閣府「平成29年版高齢社会白書」による)

【問題のわらい】

- 中学校学習指導要領「書くこと」の指導事項に関する問題。高齢者とコミュニケーションをとる際に心がけたいことについて、文章の資料（資料1）とグラフの資料（資料2）という、異なる二つの資料から読み取った内容を関連付け、自分の考えを論理的に構築して表現する力をみる。

【中学生へのアドバイス】

- 普段から時事問題に関心を持ち、幅広い分野の書物や新聞記事を読んでみましょう。その際、図表やグラフを用いた筆者の意図を捉えたり、文章を読んで考えたことや感じたことを、具体的に根拠を明らかにして文章に表現したりする練習をしてみましょう。

(2) 社会における特徴的な問題

1

Ⅲ 資料1は、空港を利用して日本に入国した外国人の国や地域の割合を、全国の空港、鹿児島空港、熊本空港について示したものである。また、資料2は、鹿児島空港、熊本空港との間にそれぞれ国際線で結ばれた空港がある都市を示している。鹿児島空港、熊本空港から入国した外国人の国や地域の割合についての特徴を、資料1、資料2をもとにして、50字以上60字以内で書け。ただし、アジアということばを使うこと。

資料1

(単位：%)

国名や地域名	全国の空港	鹿児島空港	熊本空港
中国	23.9	10.8	1.2
台湾	15.1	16.8	21.8
香港	6.7	41.8	16.5
韓国	22.1	24.1	58.6
イギリス	1.4	0.9	0.4
アメリカ合衆国	5.5	1.0	0.7

※平成30年の10月1日から10月31日に入国した外国人の割合を示す。
(法務省出入国管理統計から作成)

資料2

鹿児島空港	インチョン(韓国)、テグ(韓国)、 シヤンハイ(中国)、タイペイ(台湾)、 ホンコン(香港)
熊本空港	インチョン(韓国)、カオシュン(台湾)、 ホンコン(香港)

※平成30年10月現在
(鹿児島空港、熊本空港のウェブページから作成)

社-3

[問題のねらい]

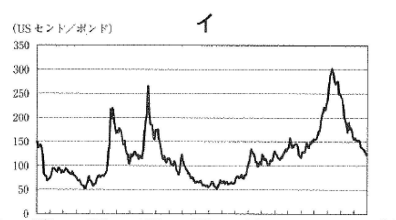
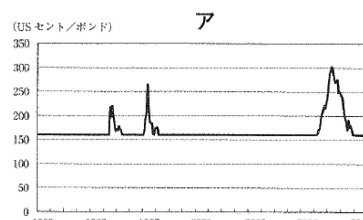
- 社会的事象の特徴について、複数の資料から、位置や空間的な広がりに着目して捉える思考力、判断力をみるとともに、字数の上限・下限と指定されたことばを用いるという条件の中で、思考、判断したことを論理的に表現する力をみる。

[中学生へのアドバイス]

- 複数の資料の関連やつながりを考えながら、字数制限を設定して自分なりにまとめる活動に取り組みましょう。割合や特徴という言葉の意味にも気を付けましょう。
- 新聞記事等で取り上げられた鹿児島県の身近な出来事に興味をもちましょう。

3

Ⅲ 資料1は、フェアトレード商品であることを示すラベルである。資料1のラベルが示された商品の取り引き価格の推移を表したものは、資料2のア、イのどちらか。また、このフェアトレードのしくみを、その目的を明らかにして書け。ただし、発展途上国、生活ということばを使うこと。



※価格はコーヒー豆1ポンド(約454グラム)あたりの価格で、1セントは0.01ドルである。
(国際通貨基金の資料などから作成)

社-7

[問題のねらい]

- フェアトレードのしくみや目的について、資料2のグラフを比較して多面的・多角的に考察する思考力と、現代社会に見られる課題について公正に判断する力、思考、判断したことを論理的に表現する力をみる。

[中学生へのアドバイス]

- 現代社会の課題等と関連した基本的な用語を使って、図表やグラフ等について説明する学習に取り組みましょう。
- 設問をよく読み、解答で求められていることは何かを再確認しましょう。ポイントを整理してから文章をつくりましょう。

(3) 数学における特徴的な問題

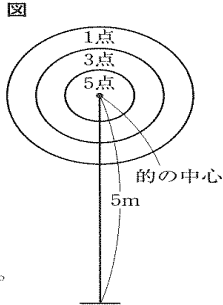
3 AさんとBさんのクラスの生徒20人が、次のルールでゲームを行った。

・図のように、床に描かれた的があり、的の中心まで5m離れたところから、的をねらってボールを2回ずつ転がす。

・的には5点、3点、1点の部分があり、的の外は0点の部分とする。

・ボールが止まった部分の点数の合計を1ゲームの得点とする。

・ボールが境界線上に止まったときの点数は、内側の点数とする。



たとえば、1回目に5点、2回目に3点の部分にボールが止まった場合、この生徒の1ゲームの得点は $5+3=8$ (点) となる。

1ゲームを行った結果、下のようなになった。このとき、2回とも3点の部分にボールが止まった生徒は2人であった。次の1～3の間に答えなさい。

得点(点)	0	1	2	3	4	5	6	8	10
人数(人)	0	0	5	2	5	1	4	2	1

3 AさんとBさんは、クラスの生徒20人の得点の合計を上げるためにどうすればよいかそれぞれ考えてみた。次の(1)、(2)の間に答えよ。

(2) Bさんは「1m近づいてもう1ゲームやってみるとよい。」と考えた。この考えをもとに図の的の点数は1ゲーム目のままで20人が2ゲーム目を行った。その結果は、中央値(メジアン)が5.5点、Aさんの得点が4点、Bさんの得点が6点で、Bさんと同じ得点の生徒はいなかった。この結果から必ずいえることを下のア～エの中からすべて選び、記号で答えよ。

ア 1ゲーム目と2ゲーム目のそれぞれの得点の範囲(レンジ)は同じ値である。

イ 5点の部分に1回でもボールが止まった生徒の人数は、2ゲーム目の方が多い。

ウ 2ゲーム目について、最頻値(モード)は中央値(メジアン)より大きい。

エ 2ゲーム目について、Aさんの得点を上回っている生徒は11人以上いる。

【問題のねらい】

- ゲームのルールを理解し、資料の活用に関する知識・技能を使って課題を解決していく力をみる。
- ゲームの具体的な場面で、ルールや様々な条件を与えられたときの思考力、判断力をみる。

【中学生へのアドバイス】

- ルールや様々な条件が与えられている問題は、ルールや条件などの内容を確実に読み取り、問題を解決しましょう。その後、条件の一部を変えた場合の問題についても考えてみましょう。
- 「必ずいえることをすべて選ぶ」問題に対応するために、普段の学習でも、成り立たないと判断したものは「なぜ成り立たないのか」を考え、その理由や根拠を説明できるようにしましょう。

5 次の1、2の間に答えなさい。

1 次の ア ～ オ に適当な数または番号を入れ、会話文を完成させよ。

先生：そうですね。展開図にかき入れると、かけた糸のようすが分かりやすくなります。

最後は、正八面体の中に作られた立体の体積の変化の問題です。図6の1辺の長さが6cmの正八面体の辺上を、毎秒1cmの速さで6秒間だけ動く2点P、Qがあります。2点P、Qは点Aを同時に出発し、点Pは辺AB上を点Bに向かって、点Qは辺AD上を点Dに向かって動きます。三角すいCPFQの体積が正八面体ABCDEFの体積の $\frac{1}{6}$ となるのは、2点P、Qが点Aを出発してから何秒後のことか、考えてみましょう。

2 1の会話文中の下線部について、何秒後か求めよ。ただし、2点P、Qが点Aを出発してからt秒後のこととして、tについての方程式と計算過程も書くこと。

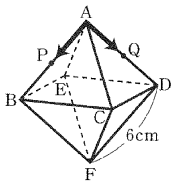


図6

【問題のねらい】

- 体積に着目して方程式を立式して解き、求めた値が条件を満たすか吟味する一連の力をみる。
- 対話的な学びを通じた探究的な学習場面を想定した出題形式で、読解力、思考力、表現力をみる。

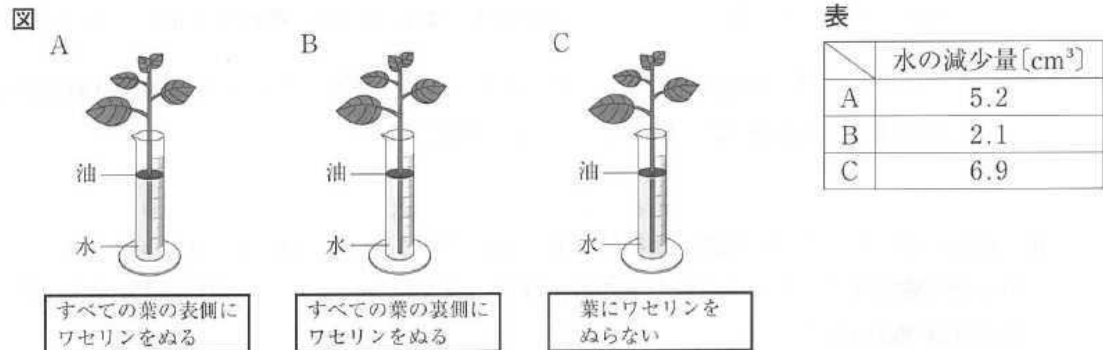
【中学生へのアドバイス】

- 体積を求める問題は、①適切な図をかき、②必要な長さなどを求めて、③使えそうな性質や位置関係などを基に解決を図りましょう。
- 問題解決の過程で、二次方程式を活用する場合には、得られた解が問題の答えとして適切かどうか、問題設定や条件、解決過程を振り返って調べましょう。

(4) 理科における特徴的な問題

2 II たかしさんは、植物の蒸散について調べる実験を行った。まず、葉の枚数や大きさ、茎の太さや長さがそろっている同じ植物の枝を3本準備した。次に、図のように、葉にA～Cに示す処理をした枝をそれぞれ同じ量の水が入ったメスシリンダーにさし、水面を油でおおった。その後、光が当たる風通しのよい場所に置き、2時間後にそれぞれの水の減少量を調べた。表は、その結果である。

ただし、水の減少量は、蒸散量と等しいものとする。また、ワセリンをぬったところでは、蒸散は行われないものとし、気孔1個あたりの蒸散量はすべて等しいものとする。



3 たかしさんは、「Cの水の減少量は、すべての葉の表側と裏側からの蒸散量の合計である。」と考えていたが、実験の結果からこの考えが適切ではないことがわかった。

(1) この考えが適切ではなかったのはなぜか。その理由を「蒸散量」ということばを使って書け。

【問題のねらい】

- 実験から見いだした、葉、茎の特徴を的確に捉え、他者の予想していた考えが適切でなかった理由を説明させることを通して論理的思考力と表現力をみた。

【中学生へのアドバイス】

- 「蒸散」とは何か。実験の結果を用いて説明できるようにして、その意味を理解しましょう。
- 考察する際、意見交換などではあらかじめ自分で考え、その考えを根拠に基づいてまとめることを心がけましょう。また、他者との対話を通して、自分と異なる予想をした意見について、「なぜそう考えたのか。」を常に考えるようにしてみましょう。

5 3 7月31日は地球と火星が最接近し、太陽から見て地球と火星が同じ方向に位置していることがわかった。7月31日の午後9時ごろ、ひろみさんはどの方角の空に火星を観察することができるか。ただし、地球と火星はほぼ同じ平面上を公転している。

ア 北東の空 イ 北西の空 ウ 南東の空 エ 南西の空

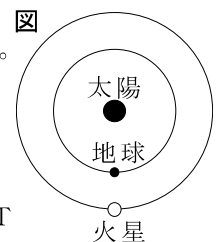
【問題のねらい】

- 問題文から正しく情報を読み取り、既習内容を基に科学的に思考する力をみた。

【中学生へのアドバイス】

- ひろみさんの視点を地球の外から地球上に移動させ、地球上のひろみさんの位置から見た天体の方位の捉え方を考えてみましょう。

地球と宇宙の学習では、イメージしたことを図に表すようにしたり、ICTや天体モデルを使うなどして視覚的に捉えやすくして考えてみましょう。



(5) 英語における特徴的な問題

- 1 5 これから、中学生の Jack と Jack の母親との対話を放送します。その中で、母親が Jack に質問をしています。Jack に代わってあなたの答えを英文で書きなさい。2 文以上になってもかまいません。書く時間は1分間です。

【放送された英文】
Jack : Mom, can I have breakfast at 6 tomorrow?
Mother : It's Saturday tomorrow. Do you have classes?
Jack : No, we don't have school, but I have to get up early.
Mother : Why?

【問題のねらい】

- リスニング形式の問題で、学校の授業のない土曜日の朝に早起きすべき理由を、一分間で考えて書くことで、実際のコミュニケーション場面により近い状況で返答を求めた。

【中学生へのアドバイス】

- 自分の気持ちや考えに近い英語の表現を教科書から選んで使ってみたり、習った語句を活用したりして、相手に話すようにしましょう。
- 日常生活の場面（学校生活や友人との会話、道案内や買い物など）でよく使われている表現をノートなどにまとめておき、実際の使用場面で積極的に使って話すようにしましょう。

- 4 7 次は、文化祭が終わった後の Amy と Mark との対話である。Amy に代わって に15語程度の英語を書け。2 文以上になってもかまわない。
- Mark* : We did a great job. Thank you for your amazing idea.
Amy : You helped us a lot, Mark. I learned an important thing from the class meetings.
Mark : Oh, did you? What's that?
Amy :
Mark : That's true. Our class has become better now!

【問題のねらい】

- 主人公エイミーと同級生のマークとの文化祭後の対話という設定である。マークとの会話の中でエイミーが話し合うことの大切さについて気づき、その後クラスでの話し合いをした結果、皆で協力して取り組むことのできる出し物に決定したという経緯を読み取れているかを問うた。
- 物語文を読んで理解した内容について、対話を完成させる力をみる意図で出題した。

【中学生へのアドバイス】

- 登場人物の心情の変化などを本文中の根拠を基に推測しながら、物語文を読みましょう。
- まとまりのある文章を読んで、概要をまとめてみましょう。
- 読んだ内容を基に、自分が登場人物の立場だったらどうするか、自分の事として捉えて、気持ちや考えを、話したり、書いたりして表現するようにしましょう。